

「あなたの罪は赦された」

～あなたは支え手～

ルカ5:17～5:26

日本では自動車免許で優良者に与えられるゴールド免許があるが、実はゴールド免許の半数がペーパードライバーで死亡事故の半数はゴールド免許者が起こしているそうです。クリスチャンも優良な人生かもしれないが事故を起こさないわけではありません。事故の原因はよその見の事が多くて、信仰の人生と同じで、大切なのはよその見をせずに前を向いている事。問題が起きた時程前を向かないといけない。聖書も人生も全体を見ないとけない。

今だけしか見れないと、問題が起きると「なぜ？」と思い、一喜一憂して多くの物を失ってしまふ。「なぜ？」は自らを苦しめる。悲しみに始まり、相手への怒りとなり、その怒りは自分に向き、自責の思いになり、自分に劣等感をもち、絶望になってしまう。自分は悪くない、相手が悪いと思って、怒ったまま終わる人もいるが、どちらも同じ症状。どちらもあきらめに向かってしまふ。クリスチャンになってからも、あきらめなくなるような状況は何度もあったが、あきらめないという決断をした事で今がある。もし、あきらめていたら今のような祝福はなかった。

■ 中風の人の癒し

脳梗塞か何かで、体の自由が利かなくなり寝たきりになった人がいた。今から2千年も昔で治療方法もない時代。病は罪の象徴だったので、病の人は差別され、あなたが悪いと言われ責められた。イエス様が来て、この人を連れて行ったが、群衆が集まり建物の中には入れてもらえなかった。そのような状況で、見るべきなのは4人の友人がどのように病にある人と向き合い、どうしてこの人の病が治ったのかという事。神は従う者に祝福を与える。従わない者には呪いがある(申命記7:6～7:14)

これは今も変わらない。これを当時の人は自らの人生にあてはめず、他者に当てはめていた。このフィルターで人を見て、愛し合う場なのに、裁き合いとしてしまふ。気をつけないと教会もその様になってしまう。神様は自らを否む事は出来ない、自らの約束は果たされるので、先祖の行いによって祝福を受けていた人もいた。神様は間違っていた行いをしている人に罰を与えたりはしない。立ち返るように何度でも声をかけ続ける。彼らに諦めなさい、あなたの人生は終わったとは言わない。自分が神様に従う様に生きる事が大切で、これは、自分に向けてべき言葉。自分に向けて善となるが、相手に向ければ正義で裁く事になる。

■ イエス様の方法

イエス様は「友よ、あなたの罪は赦された。」と言われた。彼の信仰を見て癒されたともある。神が働く姿とはこの様なもの。信じようとする姿が大切。イエス様がしたのは、彼らの信仰に対する応答と、お前が悪いと裁かれ続けてきた失望の回復。そのツールとして癒しが起こった。私達の目は一時癒しに目が向きやすいが、神様がされるのは私達が求める癒しや奇跡とは違う。私達の失望していた心が変化することこそが奇跡。

中風の人の友人は群衆に遮られて建物に入れなかったで、屋根を壊してでもイエス様のもとに連れてきた。その信仰と真つすぐな心を見て癒しは起きた。神様はその人の心に応えるお方なので、大切なのは心をつつすぐに神様に向ける事。傷ついて真つすぐに向かなくなっている人に対して、イエス様は前に向ける様に話しかけられた。罪人だと嫌われている人を友と呼び、その食卓につかれた。イエス様はその人の環境の変化ではなく、心の変化の為に環境を使った。その人の心を変える為に私達の想像とは違う方向で関わっていかれた。神様はあなたの人生を変える為に関わって来られる。だからこそ現実だけを見てはいけない。視線を変えないといけない。

■ ① 過去を断ち切る決断

神様が変えたいのは、過去から生まれた私達の心。自分が立てなくなったのは自分の罪のせいだと、自分を責めていた人にイエス様は「立て」とは言わなかった。「あなたの罪は癒された」「友よ」と言った。イエス様の目はその人の心に向いているのに、私達の心が問題だけに向いていると本当の癒しがわからない。神様のされる事は一つ一つに意味がある。長い目で見ないとわからない。日野原先生も、何度も死にそうになり、痛みを知り、ダビデも苦しみに会った事は幸いです、神のおきてを学びましたと言った。たとえクリスチャンでも問題に遭遇する。その時に大切なのは前を向く事。

神様の計画は素晴らしい。将来の為にともに進む。坂本龍馬を斬った男は、クリスチャンを迫害する為に生きていたような人だったが、やがて教会にふとした事で入り、訳も分からず涙が止まらないという経験をして、クリスチャンになった人。坂本龍馬の養子となった人物も牧師になっている。龍馬の周りには多くのクリスチャンがいた。本当は加害者と被害者で上手くい

くわけはない関係なのに、将来の為に共に手を取って進もうと言った。憎しみの中にいれば、何も変わらなかった。でも、悲しみを捨てた。過去を断ち切る決断をした。今まではこうだったけど、これからは前とは違うんだと前を向く決断をした。その事で、多くの人が繋がって、福音が広がっていった。

悲しみが大切なでも、悲しみから何かが変わる訳でもなく、悲しみをきちんと理解し、乗り越える決断をし、過去を断ち切る人生を選ぶ事が大切。それが人生の祝福に繋がる。

■ ② 最悪を最善にする神。神が置かれたところで神に柔和に生きる。

最悪だと思ふ時こそ、最悪を最善に変える神様がおられる事を信じて欲しい。最悪の中から奇跡が起こる。でも、過去に支配されたまま、自分のルールで向き合えば同じ。視線を変え神様からの価値観に変える事。柔和とは、置かれたところで生きる木の様な人生。折れない、恐れない、逃げない人生。自らの怒りに負けず、その状況から自らを逃がさない決断。従順である事。イエス様と共に十字架を強制的に背負わされたシモン(ギリシャ語:シメオン)は周りから見れば犯罪者だったが、その与えられた役割に徹し、徹底的にその場で仕えた。神様は旧約の時代にとことん祝福を奪われた人達を新しい約束で回復している。私達は一つ一つしか見えない。呪われたと言われ散らされたシメオン部族が、又集められて祝福されている。

■ ③ 愛され選ばれた者、シモン

愛され選ばれたあなたを神様はシモンのように用いる。神様はあなたが立派だから選んだわけではない。選ばれる理由が立派である事ならば、立派でないと愛されないと思ってしまう。神様は私達が祝福されていないのは嫌なので、置かれたところで柔和でいる事を願われている。あなたの置かれたところで問題が起きたのなら、価値観を変えて、逃げずに向き合えないといけない。今、なぜこの状況にあるのか、神様は何をしようとしているのか、自分の胸に手を置き、未来の為に共に進まなければならないと考える事が大切。これは自分を責める行為ではない。人に指さす行為こそが自分を責める事。(人を指させば、3本の指は自分の方を向いているから)

ヤコブ4:8～9、2:13 神に近づきなさい。そうすれば、神はあなた方に近づいてくださいます。罪ある人たち。手を洗い清めなさい。二心の人たち、心を清くしなさい。あなた方は苦しみなさい。悲しみなさい。泣きなさい。あなた方の笑いを悲しみに、喜びを憂いに変えなさい。主のみ前でへりくだりなさい。そうすれば、主があなた方を高くしてください。あなたがたは、祝福を受け継ぐ為に召されたのだからです。

憂いは百回復すると書く。自らの罪に対して、何でこんな要素を持っているのだろうと悲しまなければならない。喜んでいふふりをしてはいけない。きちんと悲しんで、慰められると、喜びに変えられる。苦しむとは、自らの本当の自分ではない姿と戦う苦しみ。笑いと、偽りの笑いの事。笑ってごまかす事。これと向き合う必要がある。喜びを憂いに変える。嫌な相手に愛を流す事は自らにとっては憂い、悲しみかもしれない。人生の奇跡は赦しと愛しかない。その前提には悔い改めがある。悔い改めと愛と赦しが自らと相手に常に向かなければならない。

あなたは愛されて選ばれた存在です。だから、決断する必要がある。私達の人生で大切なのは、過去を基に判断しない事。過去に出会った痛みは、私達を同じ状況に落とし入れるので、これを断ち切る。今までは怒って悲しみを消してきた。これでは解決にならない。必要なのは、真つすぐに神様の前に出る事。そして、隣人の痛みを知ったなら、この4人の友のように、意地でも連れて行ってあげないといけない。立てない人に「立て」というのではなく、導かなければならない。でも、いつも同じ方法とは限らない。その時々ベストな方法を選ばなければならない。立てる人には、自らで立てる方法を導かなければならない。あなたは赦された者であって、助け人です。神様が繰り返し私達に伝えていている事は、過去を断ち切る事、自分を愛する事、自分を罰しない、責めない事、怒ってはならない事、神を見る事、悔い改めは自分を否定する事ではないという事です。私達がしなければならぬ事は神様によって変えられる人生を選ぶ事です。そして、周りに愛を流す支え手、助け手となる事です。

(要約者:日名 陽子)

(7月30日)